

第 5 期 産 業 振 興 計 画 < 林 業 分 野 > の 令 和 8 年 度 の 取 り 組 み の
強 化 の ポ イ ン ト に つ い て

令和8年度の取り組みの強化のポイント

◆分野を代表する目標：原木生産量、木材・木製品製造業出荷額等

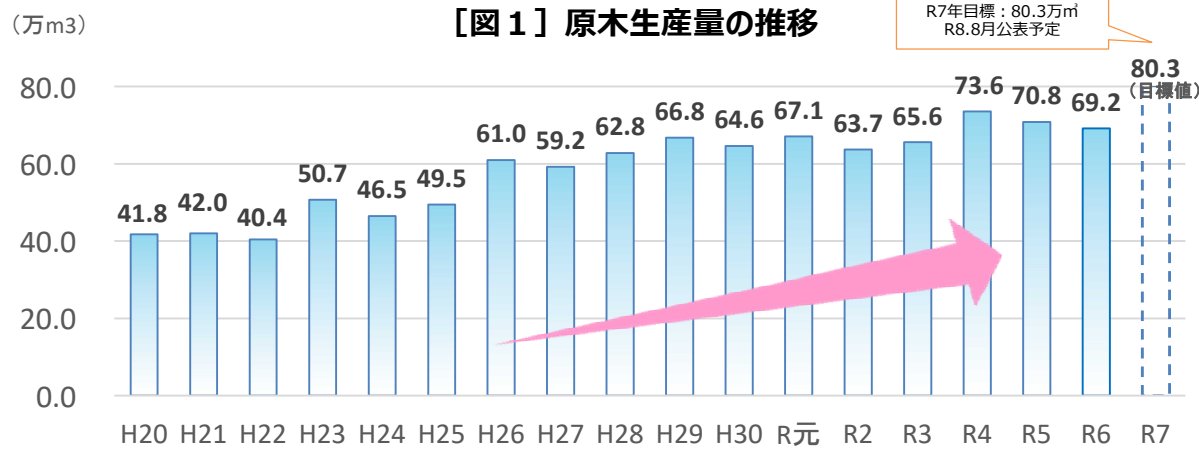
原木生産量							木材・木製品製造業出荷額等							製材品出荷量									
単位：万m ³							単位：億円							単位：万m ³									
	R4 (出発点)	R5	R6	R7	R8	R9		R3 (出発点)	R4	R5	R6	R7	R8	R9		R3 (出発点)	R4	R5	R6	R7	R8	R9	
目標	77.0	79.6	78.0	80.3	82.6	85.0	目標	218	224	228	224	227	227	257	目標	-	-	-	-	21.8	21.8	25.9	
実績	73.6	70.8	69.2	-	-	-	実績	249	266	245	-	-	-	-	実績	21.8	20.8	22.3	-	-	-	-	
達成度	B	B	B	-	-	-	達成度	S	S	A	-	R8年7月公表予定			達成度	-	-	-	-	R8年6月公表予定			-

物価上昇や直近の実績などを踏まえて目標を上方修正

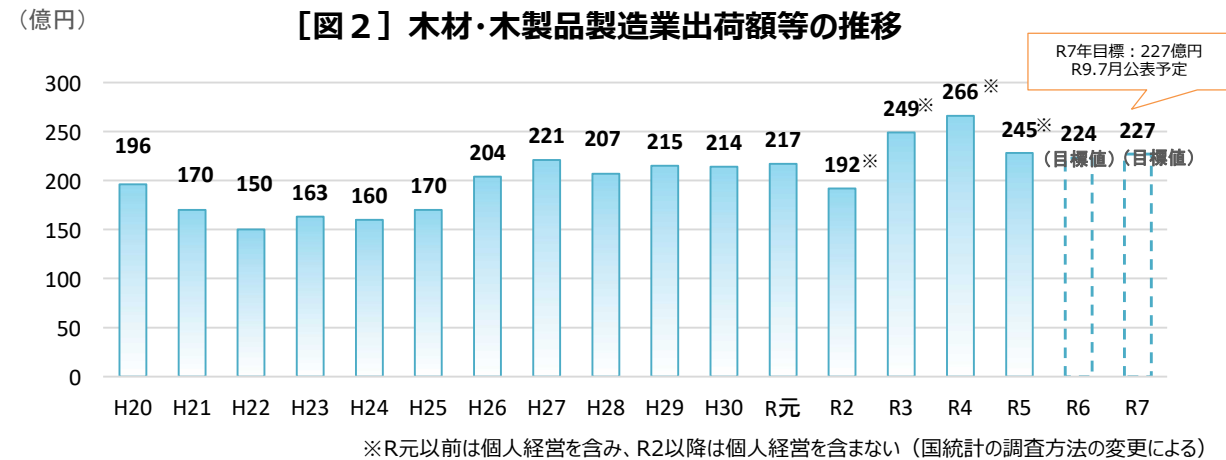
◆分野を代表する目標の達成見込み

- 令和6年「原木生産量」は、原木需要の減少や原木生産に携わる労働力が増加する再生林に向けられたことなどから69.2万m³となり目標の78.0万m³を下回った。令和7年は前年度並みで目標を下回る見込み。[図1]
- 令和5年「製材品出荷量」は、輸入材の調達不安から、国産材の需要が継続したことにより増加。令和5年「木材・木製品製造業出荷額等」は製品価格が低下したものの製材品出荷量が増加したことから245億円となり、目標の228億円を上回った。令和6年、令和7年は、物価高騰の影響等による住宅需要の減少や製品価格の下落から「木材・木製品製造業出荷額等」、「製材品出荷量」とともに目標を下回る見込み。[図2、3]
- 今後は、製材工場の加工力強化を図ることで県内の原木需要の拡大に取り組む。

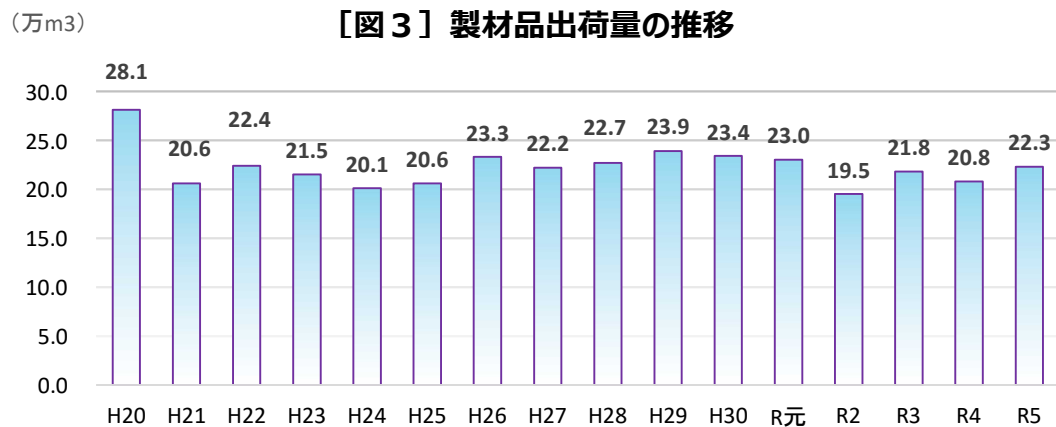
指標	進捗状況の基準
S	数値目標の達成率 110%以上
A	数値目標の達成率 100%以上110%未満
B	数値目標の達成率 85%以上100%未満
C	数値目標の達成率 70%以上 85%未満
D	数値目標の達成率 70%未満
-	達成度の判断が困難なもの



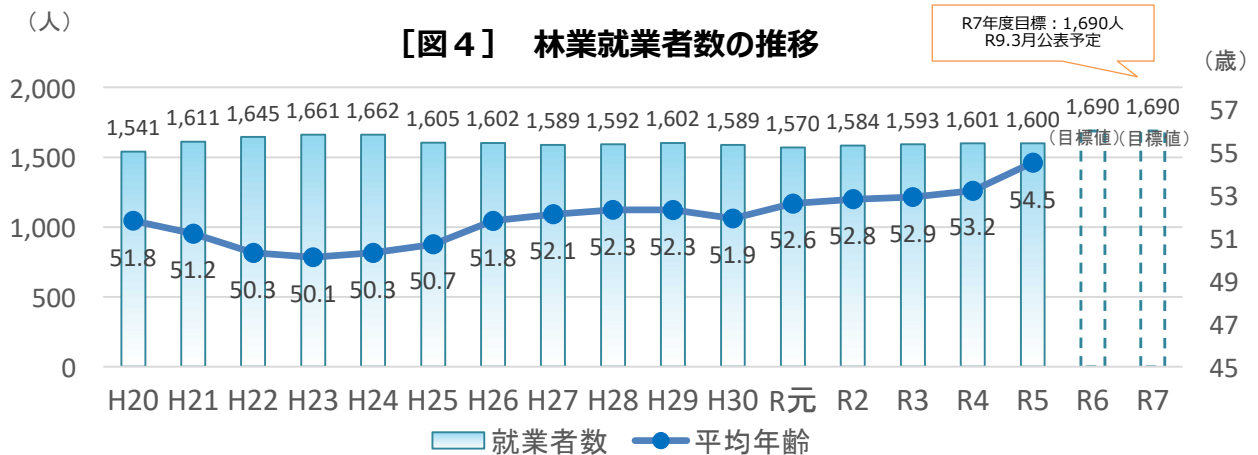
R4年には、木材価格が一定高い水準を維持したことにより原木生産量が73.6万m³まで拡大したが、R5年以降、原木需要の減少に伴い70万m³前後で推移。



R5年の出荷額は、前年のウッドショックと呼ばれる輸入材の減少に伴う国産材の需要増、価格高騰の反動で単価が下がったものの、製材品出荷量の増加により245億円となった。



R5年の製材品出荷量は、輸入材の調達不安から国産材の需要が継続したことにより増加。



各種相談会の開催や就業希望者への相談対応、林業大学校での研修実施などにより新規就業者の確保につなげ、林業就業者数を維持。

林業分野の施策の展開 ～山で若者が働く、イノベーション創発型の国産材産地～

目指す姿

- ①川上 林業適地を中心としてICTやデジタル技術、先端林業機械を活用するスマート林業への転換が進み、伐採後の再生林をはじめ森林資源の再生産につながる事業活動が活発に行われている。
- ②川中 原木を安定的に調達する体制が整備され、非住宅分野をはじめ新たな需要への高品質な製材品の供給力が向上している。
- ③川下 住宅への木材利用に加え、非住宅建築物の木造化・木質化に向けた取り組みを強化することにより県産材利用が拡大している。
- ④担い手 デジタル化された森林情報の活用をはじめスマート林業の推進などによる生産性の向上から従事者の所得が向上し、若者や女性等の多様な人材がいきいきと活躍している。

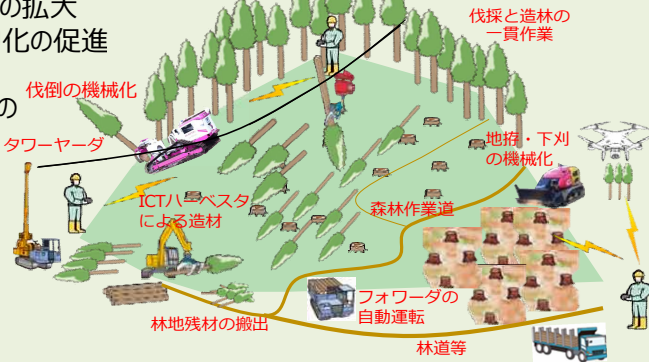
分野を代表する目標

原木生産量	出発点 (R4) 73.6万m ³ ⇒ 現状 (R6) 69.2万m ³ ⇒ R8 82.6万m ³ ⇒ 4年後 (R9) 85万m ³ ⇒ 10年後 (R15) 85万m ³
木材・木製品製造業出荷額等	出発点 (R3) 249億円 ⇒ 現状 (R5) 245億円 ⇒ R8 227億円 ⇒ 4年後 (R9) 257億円 ⇒ 10年後 (R15) 292億円
製材品出荷量	出発点 (R3) 21.8万m ³ ⇒ 現状 (R5) 22.3万m ³ ⇒ R8 21.8万m ³ ⇒ 4年後 (R9) 25.9万m ³ ⇒ 10年後 (R15) 29.6万m ³

川上 柱1 森林資源の再生産の促進

(1) 林業適地への集中投資

- ①林業適地の拡大
- ②林道等の開設（改良）の促進
- ③新たな森の工場の拡大
- 拡 ア 施業地の集約化の促進
- 拡 イ 搬出間伐から皆伐への施業の展開の促進



(2) 林業収支のプラス転換

- 拡 ①新たな森の工場等における生産性向上につながるイノベーションの推進
- ②低コスト造林の推進
- ③林地残材の利用拡大
- ④成長の優れた苗木等の生産強化
- 新 ⑤野生鳥獣による食害対策の強化
- ⑥再生林の推進に向けた林業・木材関係者の協力体制の強化



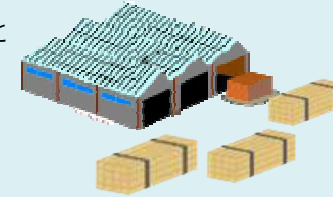
(3) 多様で健全な森林への誘導

- ①多間伐による長伐期化や針広混交林化の促進

川中 柱2 木材産業のイノベーション

(1) 大径材の利用促進

- ①製材工場の加工能力の引き上げと加工技術の普及
- 拡 ②製品の付加価値の向上



(2) 需要に応じた製材品の供給体制の整備

- ①川上・川中・川下間の連携の強化
- ②製材加工の共同化・協業化等の促進
- 拡 ③製材品の高品質化・付加価値化
- 拡 ④製材工場の労働環境の整備



(3) 森の資源を余すことなく活用

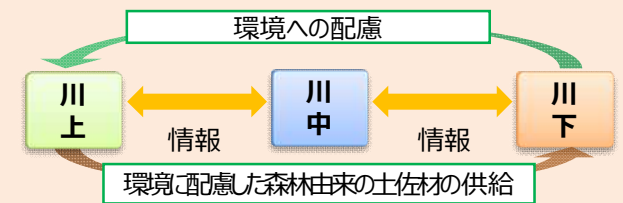
- ①木質バイオマス発電の推進
- 拡 ②竹資源の供給・利用の拡大



川下 柱3 木材利用の拡大

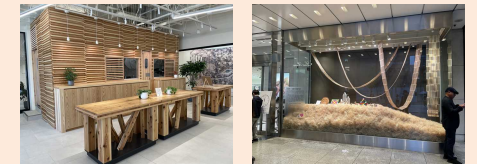
(1) 環境に配慮した新たな木材流通の促進

- 拡 ①認証制度の試験運用の実施と事業者の制度参画に向けた取組の推進



(2) 非住宅建築物等への木材利用の拡大

- ①木材利用の拡大と環境負荷の低減につながる高知県環境不動産の建築を促進
- ②CLT等を使用した非住宅木造建築物の建築拡大に向けた施主の木材利用に関する理解の醸成
- 新 ③万博のレガシーや県産材の供給実績を生かした取組の展開
- ④室内空間への県産材利用の提案とプロユースとの製品開発
- ⑤海外への販売促進（有望なエリアにおける販路開拓への支援）



先端技術をフル活用し、イノベーション創発型の林業・木材産業を展開！

担い手 柱4 多様な担い手の育成・確保

(1) ターゲットマーケティングによる就業促進に向けた取り組みの強化

- ①新規就業に向けた幅広いターゲットへの取組の展開
- 拡 ア 移住希望者等に向けた情報発信のさらなる強化
- 新 イ 外国人材の受入れに向けた林業事業者の取組支援
- 新 ウ スポットワークの受け入れに係る取組の促進
- ②「こうちフォレストスクール」の開催など若者等をターゲットにした就業相談への対応

(2) 高度な技術を有する人材の育成

- ①林業大学校における人材の育成
- 拡 ア 林業の魅力を発信するコンテンツの強化
- 拡 イ オープンキャンパスへの参加促進に向けた取組の実施
- 拡 ウ 研修生への支援制度の充実
- ②森林クラウドの活用に必要な人材の育成

(3) 魅力ある職場づくりの推進

- ①所得向上に向けた林業事業者の取組支援の強化
- 拡 ア 技術力向上により多能工化を進める取組支援
- 拡 イ 経営者向けセミナー開催やキャリアパス導入等の取組支援
- ②若者等の就業の後押しが期待できるスマート林業の推進

